# 9 小浜逸郎『人はなぜ働かなくてはならないのか』

「人間の意識は、自分の身体の制約をまさに制約としてえうることにおいて、個体超越的である」とはどういうことか。わかりやすい例を挙げよう。

私たちの暮らし慣れた生活領域の近くに、大きな川が流れているとしよう。この生活領域には、私たち人間だけでなく、多くの動物が＊している。ゴミムシ、ミミズ、チョウ、キジバト、ビーバー、タヌキなど。しかしこれらの動物たちは、彼らの行動からⓐスイテイするかぎり、自分の身体が可能にしている棲息領域を越えた「＊観念」の次元をもとうとしないと判断できる。つまりこの場合でいえば、彼らは、川の向こうに何があるか、そこはもしかしたらいまの自分たちがおかれている環境よりももっと快適なのではあるまいか、あるいは逆に、恐ろしい鬼神が住んでいるのではないか、といった「想像力」の次元をもとうとしない。彼らは、自分たちの棲息範囲に自足しており、川の存在を、せいぜい自分の生存の単なる限界として意識する（あえて言葉にⓑ翻訳してみるなら、「　　Ａ　　」）か、または利用可能な環境として意識する（「　　Ｂ　　」）か、さらには、翼によってなんなく飛び越えていけるために、別に大きな意味をもつ対象としてことさら自分に引きつけようとしない（「　　Ｃ　　」）。

しかし、人間は違う。たとえば人間の身体には翼がないので、鳥のように川の向こうには行けない。しかしその身体の限界を、まず自分の可能性の制約として繰り込み、そこから、「川の向こう」という未知の領域についてのこだわりの意識を保ち続ける。このこだわりの意識には、①さしあたり限界がない。というのも、人間の意識は、自分の身体がどういう空間的・時間的な限界をもつかもたないかにかかわりなく、いくらでも自分の身体との関係に引きつけてその可能性の範囲を想像レベルで広げていけるからである。

この、　 　Ｄ　 　を　 　Ｅ　　 でいくらでも広げうる特性が、さまざまな形式をⓒカクトクしたとき、それは、一定の行動や観念として結実することになる。たとえば、船を造ったり橋を架けたりする計画となってあらわれる場合もあるし、その風景の美しさに感動するかたちをとることもあるし、川の向こうに何がむかについての物語を作ることもできる。また、かつてこの川が存在していたのかどうか調べることもできるし、自分の死後、この川がどういう変遷をたどるかを推測することもできる。

このように、人間にとっては、制約の意識そのものが、ただちにⓓハンテンして、「物理的、生理的なものとしての身体からの観念の自由」を立ち上げる土台として機能し、作動する。人間がある条件を自分の身体の制約として意識するというこの事実と、哲学でよくいわれるように、人間の精神の本質が機械的な自然必然性からの自由に存するということとは、②じつは同じことを表側と裏側から表現した言い方にすぎない。制約を制約として意識できるということは、人間の意識の本質が自由だからであり、逆に人間の意識が自由である事実は、具体的な制約を媒介としてこそ初めて確認され、実現されるのである。

語注

棲息＝ある場所に住んで、生活すること。

観念＝ある事柄に対する考え。人間の意識内容として与えられている、あらゆる対象を意味する。

問1　二重傍線部ⓐ〜ⓓのカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えよ。（3点×4）

ⓐ〔　　　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　　　〕　ⓒ〔　　　　　　　〕

ⓓ〔　　　　　　　〕

問2　空欄Ａ〜Ｃに入る語句として最も適当なものを、それぞれ次から選べ。（4点×3）

ア　ここはも豊富だし、巣作りにも適しているぞ。

イ　木の実を食べ尽くしてしまったから、向こうに飛んで、新しい餌を見つけよう。

ウ　あ、ここから向こうへは行けないや。

Ａ〔　　　〕　Ｂ〔　　　〕　Ｃ〔　　　〕

問3　傍線部①「さしあたり限界がない」とあるが、これと同じ表現を第一段落中から五字で抜き出せ。（6点）

〔　　　　　　　　〕

問4　空欄Ｄ・Ｅに入る語句として最も適当なものを、それぞれ本文中から五字程度で抜き出せ。（5点×2）

Ｄ〔　　　　　　　　　〕

Ｅ〔　　　　　　　　　〕

問5　傍線部②とあるが、「表側」を「人間がある条件を自分の身体の制約として意識すること」とするならば、「裏側」はどういうことになるか。本文中の言葉を用いて二十字以内で説明せよ。（10点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

練習問題〈対義語〉

次の言葉と反対の意味を表す言葉を後から選び、それぞれ漢字に直せ。

①　異常　（　　　　　　）

②　偶然　（　　　　　　）

③　一般　（　　　　　　）

④　人工　（　　　　　　）

⑤　成功　（　　　　　　）

⑥　拡大　（　　　　　　）

⑦　安全　（　　　　　　）

⑧　肉体　（　　　　　　）

⑨　　（　　　　　　）

⑩　生産　（　　　　　　）

キケン　　　シゼン　　　　シュクショウ

シッパイ　　ヒツゼン　　　セイシン

キノウ　　　セイジョウ　　トクシュ

ショウヒ

【解答】

問1　ⓐ推定　　ⓑほんやく　　ⓒ獲得　　ⓓ反転

問2　A＝ウ　　B＝ア　　C＝イ

問3　個体超越的

問4　D＝可能性の範囲　　E＝想像レベル

問5　人間の意識の本質は自由であるということ。（20字）

【練習問題解答】

①正常　②必然　③特殊　④自然　⑤失敗　⑥縮小　⑦危険　⑧精神

⑨帰納　⑩消費

【50字要約例】

人間の意識の本質は自由であり、具体的な制約を媒介として確認することにおいて、個体超越的である。（47字）

▼補充設問▲

（本文１行目「自分の身体の制約をまさに制約として捉えうること」に傍線を施し）

問　傍線部「自分の身体の制約をまさに制約として捉えうること」とほぼ同じ内容を表す語句として最も適当なものを本文中から二十五字で抜き出し、次の解答欄の文に続く形で答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕ということ。

　答え　身体の限界を、まず自分の可能性の制約として繰り込む（ということ）

（本文23行目の「観念の自由」を空欄にして）

問　空欄に入る語句として、最も適当なものを次から選べ。

ア　制約の自由

イ　観念の自由

ウ　物質的な自由

エ　空間的な自由

答え　イ